

未来をつむぐ「あしたの京都」ビジョン あなたとつなぐ府民交流会 in 丹後

日 時： 平成 21 年 7 月 20 日（月） 14:00～16:00

場 所： みやづ歴史の館

登壇者： 山田 啓二 京都府知事
井上 正嗣 宮津市長
中山 泰 京丹後市長
吉本 秀樹 伊根町長
太田 貴美 与謝野町長
今井 一雄 京都経済同友会北部部会長、「明日の京都」ビジョン懇話会委員
高木 光 京都大学大学院教授、「行政運営の基本理念・原則となる条例」検討委員会座長
高岡 亜衣 書道家【ゲスト】

○司会 お待たせいたしました、山田京都府知事、丹後地域の2市2町の市長・町長を初め、委員・ゲストの皆様方に御登場いただきます。どうぞ、こちらにお越しくださいますように。

では、ステージ上の皆様を紹介させていただきます。まず、山田啓二京都府知事でございます。お隣、井上正嗣宮津市長でございます。お隣、中山泰京丹後市長でございます。お隣が吉本秀樹伊根町長でございます。お隣、太田貴美与謝野町長でございます。そして、知事のお隣になります、明日の京都ビジョン懇話会委員の今井一雄宮津商工会会議所会頭でございます。お隣、行政運営の基本理念・原則となる条例検討委員会座長の高木光京都大学大学院教授でございます。そして、私のお隣になります本日のゲストスピーカー宮津市出身の書道家、高岡亜衣さんでございます。どうぞよろしく願いいたします。

なお、本日は京都府議会議員の皆様にも会場にお越しただいておりますので、ここで御紹介をさせていただきます。まず、多賀久雄様でございます。巽昭様でございます。また、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町の議会議員の皆様方にもお越しただいているようでございます。よろしければ、その場で御起立ただいてよろしいでしょうか、せっかくでございますので。どうぞよろしく願いいたします。

まだまだ多くの皆様方にお集まりいただいているようでございますね。どうぞ、お越しただいた皆様方、前の方まだあいてございますので、よろしかったら前の方へとお席、お進みくださいますように、よろしいですか。

では、この府民交流会開会に当たりまして、山田啓二京都府知事からごあいさつ申し上げます。

○山田啓二知事 きょうはちょうど3連休の最後の日になるというふうに思っておりますけれど

も、こうして丹後・宮津・与謝の皆様には府民交流会に多数お集まりいただきまして、心からお礼を申し上げたいと思っております。

この府民交流会は、実は非常に初めての試みでありまして、ちょうど私たちがこれからの京都をどうつくっていくかという京都府の総合計画、これが来年で終わりを迎えます。それで次の10年、20年を見据えてしっかりとした形で、一つには府民の皆さんの立場を超えて、思いはやっぱり共有していく必要があるんじゃないか、みんなの心を合わせてこれからのすばらしい京都をつくっていくために、みんなで共通の思いを決めていくんじゃないかということで、実は条例をつくろうという試みをしております。さらに、この思いをもとに、未来の京都をこういうふうにありたいなという願いを込めたビジョンをつくろうじゃないか、これは「明日の京都」ビジョンと呼んでおりますけれども、こういうビジョンをつくろうということで、今、取り組んでいるところであります。

どちらかと申しますと、今は非常に景気、雇用の厳しい時代であります。この丹後・宮津・与謝につきましても、もともと丹後ちりめんは大変、状況はまたことし今年もきついのかなという、そういうことになっておりますし、ここ数年好調でありました機械金属の方も、去年以来の自動車産業の不況等に始まりまして、大変厳しい状況になっている。そして、さらに悪いことは重なるものでして、何と申しましても、この地域と申しますと観光もほとんどに天橋立を中心に、大変日本に誇るものがいっぱいあるのにもかかわらず、新型インフルエンザが来まして、どうももう一つ伸びを欠いているということで、ありとあらゆる面で厳しい状態が続いている。なかなか、これからの10年、20年を見通してなどと言ったって、あすのことを考えるのが精いっぱいだという、そういう方も大変多いのじゃないかなというふうに思っております。

私どもは何としましても、その苦境を脱するために、ことしは京都温め予算という形で全国屈指の投資的経費の伸び率を確保した予算を講じて、積極的に景気対策、雇用対策に乗り出しておりますし、また今回6月の補正予算におきましても、750億円という史上最大になります補正予算によって、何とかこの時期を乗り切るといいうふうに頑張っている最中でありまして。ただ、その乗り切ってもやっぱり未来に夢がなければ、乗り切った後が私は、これは結果に終わってしまうんじゃないか。やはり夢を持って、夢を未来に変えていくということと同時に、この時期にやるからこそ、私たちはやっぱり希望を持って、次の世代の子供たちに私たちの京都を託せるんじゃないかなというふうに思っております。

そうした面から皆さん、いろいろな思いはあると思っておりますけれども、ぜひともこの丹後・宮

津・与謝、これからどうなったらいいのか、どういう夢を持ったらいいのか、どういうことを京都府に望むのか、ぜひとも本日は積極的に御提言をいただけたらというふうに思っております。ほんとに活発な提案を心から期待いたしまして、私のごあいさつとさせていただきます。どうかよろしくお願い申し上げます。

○司会 では、ここで明日の京都ビジョンの概要につきまして、高嶋学京都府政策企画部長から説明いたします。

○高嶋 学部長 京都府の高嶋でございます。ビジョンの考え方につきまして、少し事務的に説明をさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。恐縮でございますが、お手元の資料の中に横長で、右の上に1と番号の振ってある資料をごらんいただけますでしょうか。

それでは御説明申し上げます。京都府の「明日の京都」ビジョンはこうして検討していますという資料でございます。京都府ではこれまで10年間の府の総合計画であります新京都府総合計画、新府総と呼んでおりますが、そのうちの後半5年間の重点目標等をあらわした中期ビジョン、そしてこの二つの計画に加えまして、各広域振興局ごとにつくりました地域振興計画、これを基本といたしまして、府政運営を進めてまいりました。これらの三つの計画はおおむね来年、平成22年をもって計画期間が満了いたします。

そこで、それらの後継となります計画づくりに昨年の8月から着手をいたしました。新しい計画の体系は、これまでの総合計画とは発想を転換いたしまして、資料にありますように基本条例、そしてビジョンや計画をつくって、この四つの柱で長期の視点と短期の視点をあわせ持った府政運営を進めていこうと考えております。

四つの柱についてそれぞれ御説明を申し上げます。まず初めに、真ん中にあります長期ビジョンでございますが、これは10年ないし20年後の京都府社会のありたい姿、将来の京都府はこんなふうになってほしいという社会像を描いていこうとするものでございます。そして、その下にございます中期計画、そして地域振興計画でございますが、この二つは京都府社会、あるいはそれぞれの地域のありたい姿に向かうために、おおむね四、五年間に行うべき具体的な施策や事業をまとめた計画としてつくってまいります。

このように将来のゴールをしっかりと展望しながら、一方では経済や社会の変化が非常に激しい時代でございますので、施策や事業が世の中の状況の変化に柔軟に対応しながら機動的に展開していくことによりまして、府民の皆様の暮らしをしっかりと守り、長期ビジョンの目指すゴールに向かって一步一步着実に進んでいくことができるのではないかと考えております。

そして最後になりましたが、四つ目の柱が基本条例でございます。今申し上げました長期ビジョン、中期計画、地域振興計画の三つは、いわば将来こうありたいという社会像に向かって、京都府をこういうふうに変えていきましょう、こういう京都府をつくっていきましょうというものでございますが、それに対しましてこの基本条例の方は、世の中がどう変わろうが決して変わることはない京都府政の基本的なあり方や原則といったものを、条例としてきっちり定めておきましょうというものでございます。

これら四つの基本条例、長期ビジョン、中期計画、地域振興計画、これをつくっていくために、基本条例につきましては行政運営の基本理念・原則となる条例検討委員会、そして長期ビジョンと中期計画につきましては「明日の京都」ビジョン懇話会、地域振興計画につきましては各広域振興局ごとの地域戦略会議という形で、それぞれ有識者の皆様による会議を設置し、検討に着手したところでございます。これらは京都府政の将来にわたる基本的な柱となる条例や計画でございますので、最終的には府議会に御報告をし、御意見、御議決をいただいて、成案とするものでございます。

以上でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○司会 では、私もちょっと座らせていただきまして、もうこちらのステージにおられる方もお座りいただいたままで結構でございます。一言ずつちょうだいしてまいろうかと思えます。

まず、「明日の京都」ビジョン懇話会委員でございます今井一雄さんから、「明日の京都」ビジョンについての思いを一言お願いいたします。

○今井一雄 ただいま御指名いただきました今井でございます。新府総のとき、10年前にもかかわらせていただいて、今回、図らずもまたかかわらせていただいております。時代の変化というのは相当、思った以上に早く変わってまいりました。新府総のときには、まだまだ人口は減っていくだろうとか、そういう数字を頭に置きながらやってはいましたけども、現実のもの与实际なるのかどうかというのは、まだクエスチョンマークを持ちながら議論していた自分がいたというのを思い出すわけであります。

そういうものが、そのときは具体的な目標数値を明確に打ち出していたわけですが、しかし時代そのものが、そういう成長型時代から縮小型時代、要するに20世紀型から21世紀型に大きく変化しようとしているわけでありまして、今までの人口が増えていたり、またあるとき戦争とか、天災とかいろんなことで調整されてもまた必ず成長があるということが言える時代が長く続いたわけですが、しかし、もう21世紀型はもう縮小していくのは間違いない、拡大していくことはあり得ない時代に入っていくわけであります。

そういう意味においては、人口が減ってくるということ、そのもの自体が当然エネルギーの使用が減っていくわけでありますから、当然いろんなものをすべて縮小をしていかざるを得ないという中であります。そういうことからしても、きょうは高木先生とか御一緒にやらせていただいておりますわけでありますけども、皆さんの御発言を発表するのではなくて、私の個人的なそこで言ってます内容を少しだけお話をさせていただきたいというように思っております。

それで今まで成長型社会、また成長型経済の中では、少しの知恵や努力があれば、ある程度解決できた問題が多かったような気がいたします。しかし、この縮小型経済社会に至っては、本当に今までに出したことの少ないようなばか力を出していかないと、またありったけの知恵を出していかないと、これには対応がしきれない。また、それに対して対応をしていく勇気を我々が踏み出していかなくちゃいけないという時代に入っていくんだろうと思っております。

そういう中で、私の描く明日の京都という、私の考え方を書いたものを出させていただいておりますが、それを若干かいつまんで御説明を申し上げますと、私は京都府という、この北部から中部、南部に至る広域な地域の中で、やはり一つの格差社会を認め合いながらやっていく社会の構築が必要ではないかということを書かせていただいております。それはやはり、格差の分布についても所得、また教育、医療、インフラ、介護、交通網体系等、挙げれば限りがないぐらいやっぱり格差がついてくる、これは間違いないことだろうと思っております。それだけに、今までの成長型社会の中での均衡ある社会化から、リスクある社会化に変化をしていかなくてはいけないし、これを我々は認めなくてはいけないというように、私は思っております。

所得一つをとりますと、今、京都市内の1人当たりの労働者の平均額と今、北部とを比較すれば200万円ぐらい年収で違っているのが現実でありまして、これが均衡あるものにすといくことは至難のわざでありますし、これは私は不可能に近いと思っております。そういう中で逆に、その足りないものをどう補い合っていくかというところ辺が大事なところであって、格差を認めた中での均衡ある社会をどうしてつくっていくのかというときに、当然交通一つとっても、利用者が少ないということは高くなる、よく使われるところは安くなる。これも経済原理でもあるわけでありまして、当然、病院であろうと何であろうとすべてが同じことが言えようかと思いますが、それをどう補い合っていけるのかということではないかと、私は思っております。

それだけに、逆に高齢化していく地域ほど公共交通機関は必要であると。しかし、それはやはり当然ローカルほど高くなっていく。じゃあ、それをどう補い合っていくのかということの辺がやはり大変大事なところであって、それをお互いが認め合っていかなければ、こういうものは維持が大変難しいのではないかと私は思っております。そういう意味においても、市町村単位で考えるべきもの、また振興局単位で発想を強化していく必要のあるもの、この辺が大変あるのではないかなと思っておりますし、我々住民もその辺をしっかりと認識をしていかななくてはならないことではないかなと思っております。

そういう中で、私は常に地域コミュニティが一番大事だということを、最初から発言をさせていただいておりました。行政機関としては広域化していくのは、この世の中である程度あってしかるべきことではないかなと思っておりますが、しかし大事なものは、江戸または明治にかけてあります旧村的なコミュニティをどうしっかりとつくり上げていくのかということが大変大事であろうかと、かように思っておりますし、そういう意味においての単位、コミュニティはそういう単位でありますけども、しかし経済的医療とか、またごみの問題とか、いろんなそういう廃棄物の問題、学校の問題、これはスケールメリットを生かしていかなくちゃいけないのでありますので、やっぱりその辺をどう考えていくのかということら辺が大事なところであると、私は思っております。

そういう意味においては、地域はもっと地域の中でやっぱり提案をしていくという者が出てこないよ、国がこう言っているよ、府がこう言っているよ、じゃあ何かしませんかじゃなくて、我々はこういう地域、町にしていきたいということを、済みません、時間が参っておるようですので、ということをやぜひ理解をし合っていかななくてはならないのではないかなと思っております。

最後に一言だけつけ加えますと、企業誘致の問題もよく議論で出てまいります。これにつきましても、やはり元来の大企業を引っ張ってきてという、要するにマージンの企業誘致ではなくて、やはり私はプロフィット型、要するに利益型企業をつくり上げていくということが大変大事ではないかなと。やはりこのためには、大企業を引っ張ってくるじゃなくて、地域で企業をつくり上げていくと、地域の地域産業だとかというものをどうつくり上げていくのかというのが、このマージン型からプロフィット型に変わっていくための、地域産業の大きなかぎになるのではないかなと思っております。

そういう中でヨーロッパのある先生がおっしゃった原稿を読んだときに、やはりこれからの地域にとって大変大事なことはカルチャーであって、エンバイロメント、要するに環

境よりも文化の方を優先しなくてはいけないんだと、やはりそれが地域を発展し、また守っていくためだというように書いたものがありました。大変その言葉に感銘を受けております。これからもこの地域においては、そういう意味において、やはり文化、特に京都は文化ということが最大の、どこにも負けないものを持っておるわけでありますので、そういうものをどう使いこなしていくのかということが、今後の大きなテーマではないかと思っております。

ちょっと、時間済みません。

○司会 ありがとうございます。

では次に、行政運営の基本理念・原則となる条例検討委員会座長でございます高木光さんから、条例についての思いを一言お願いいたします。

○高木 光 先ほど部長の方から四つの柱についての説明がございましたが、私は基本条例という一つの柱についての検討委員会で、1年間ほど検討してまいりました。縦になっておりまして、右肩に2番という数字がついている資料がございますが、行政運営の基本理念・原則となる条例、これは仮称ですけれども、その中間報告案というもののポイントがここにまとめてあります。

こちらはその資料の3にありますメンバーですね、そちらには学者のほかにもいろんなNPOの活動をされている方もいらっしゃいますし、それから市長さん、町長さんも入っておりますけれども、その委員のメンバーで共有できるというものをまとめたものであります。

この都道府県レベルで、この基本条例をつくっているというのは、現状では北海道と神奈川だけでありまして、あと二、三の都道府県が検討しているという段階です。我々の委員会では京都府の特徴を生かしたものをつくろうということで、三つの基本理念ということで、人を大切にする、つながり合い、支え合うというそういうもの、それから府民を支え、地域の活動を大切にすると。さらに3番目ですけども、多様な主体がともに役割を担うという、この三つの基本理念が京都府の特徴を生かせる姿であろうということで、合意を得たものであります。

それを法律的なルールにするというのがこれからの課題ですけれども、これにつきましては当然府議会の先生方の御協力が必要ですので、これから詰めてまいりたいと考えておりますが、理念を実現するものとしての原則として、現時点ではここにありますように五つ、まず府民を基点として府民が活かされる府政と、これは恐らく目標として府民目線ということで合意が得られると思います。

2番目に今、知事から話がありましたように、非常に苦しい時代ですから、夢が描けるよう

に明確なビジョンを示して、安心、活力の活性を支えると、こういうことを考えようということでございます。その前提として当然情報公開ですとか、そういうコンプライアンスの問題もありますので、府民によく見える信頼される府政というのは、これはいつの時代でも必要であろうと。それから4番目ですが、この参画と協働というのはこれまで実績を積み重ねてきたところですけども、実は都道府県のレベルでの参画・協働というのは非常に難しい問題がありまして、まずはその市町村のレベルで積み上げていくということがありますので、最後5番にもありますように、市町村との連携協力というものも大事にしていきたいというふうに考えております。

とりあえず以上でございます。

○司会 ありがとうございます。

本日は、丹後管内の2市2町の市長、町長にも御出席いただいております。

まず、井上正嗣宮津市長に、地域の将来にける思いを一言お願いいたします。

○井上正嗣市長 私からは二つほどビジョンを述べさせていただきたいというふうに思います。

一つは、世界ですばらしい環境の町にしていこうというものです。天橋立は、宮津にとって宝だというふうに思ってますけども、この天橋立から私が常に聞かせてもらっている言葉というのが二つあります。

一つは、今、宮津は大変厳しく大変な状況だろうけども、私を十分に活用して、そして宮津の発展を図っていけよというのが一つです。もう一つは今、私も非常に、天橋立ですけども、厳しいときがあると。地球温暖化によって南極や北極の氷が溶けて、海水面が1メートルでも上がれば、私は失われることになる。そうしないようにしっかりと守って、そして子供たちにこの天橋立をきちんと残していってくれという、そういう二つの声を強くいつも聞きます。そのためには真剣にどうしたらいいのかと考えます。天橋立を世界遺産にして、そしてきちっと将来の子供たちのために天橋立を残していこう、それがまず第一です。

残念ながら昨年の文化庁の方の審議結果では、暫定リストにはすぐには入れていただくことはできませんでした。でも、それに次ぐ高い評価をいただきました。引き続いて粘り強く、市民の皆さんと一丸となって、世界遺産登録に向けて続けていかなければならないと思います。そしてまた、それに地球温暖化を防止するために、環境保全にも全力を挙げて取り組んでいかなければなりませんし、また、阿蘇海の浄化や水洗化の取り組み、そしてまたいろいろなすばらしい景観問題の取組などに取り組みまして、そして世界で最もすばらしい環境だと言われる宮津をつくり上げていきたいというふうに考えてます。

二つ目のビジョンですけども、訪れてよし、そして住んでよしの宮津をつくり上げていきたいのでございます。この7月にとうとう宮津の人口も2万人を切ってしまいました。そうしないために若者定住会議なんかを開催しながら頑張ってきたんですけども、少し遅かったです。でも、まだまだこれから頑張れば、若者がしっかりと定住して、そして人口の流出も少なくなくなって、2万人を超えるまた人口に戻すことができるかもしれないというふうに思っています。

そのために若い人たちが宮津に住んで、来て働きたいと思われるような職場をどんどんまたつくっていかねばならない。そのために産業の振興、産業ルネッサンスを巻き起こして、宮津らしい地域の特色を生かした産業の創出を図っていく。そしてまた、住んでよかったと言われるような住宅もどんどんと増やしていく、子育て支援や、そして高齢者のための、たくさん喜んでいただけるような福祉も充実して、そして住んでよかったと言われるような宮津を実現していくようにしたいと思っています。

さらに、それに観光が取り柄でしたから、訪れていただいてもほんとに素晴らしい宮津だと言ってもらえるような町にしていかなければならないと思います。そして住んでよし、訪れてよしの宮津をつくり上げていきたいというふうに思います。これが今、考えている二つの私のビジョンでございます。

○司会 ありがとうございます。

次に、中山泰京丹後市長に、地域の将来にかける思いを一言お願いいたします。

○中山 泰市長 それでは私からは京丹後市の魅力を中心に、五、六、七分いただいて、思いを語らせていただきたいと思いますけども、今うちの市だけではないですけども、大変厳しい状況、取り分け生活とか雇用がもう本当に大変な状況になっているわけですけども、私は京丹後市というのはほんとはいっぱい可能性、発展の可能性、多様な魅力をいっぱい、いっぱい持っているのが京丹後市だというふうに思っております、そんな魅力を市民の皆さんとともに、そんな気づきをますます広げていって、そして魅力の原石を磨き上げたり、また豊かさを耕していったり、そんなまちづくりをぜひこれからもしっかりとやっていかないといけないなというふうに思っています。

今本当にこの21世紀になって、環境とか、健康とか、いやしとか、そういう価値への希求というかが全国的に、また全地球的に、あるいは時代の要請のような形で出てきてると思うんですけども、そういう環境とか、健康とか、いやしの原石、魅力の原石をいっぱい、いっぱい多様な形で持っているのが、もちろん丹後であり、そしてこの京丹後市であるというふ

うに感じて、ますますあります。

具体的には、海岸線は全部御案内のとおり、国立公園、国定公園ですし、山にはうちの方からしたら、河辺に続く形で低層のブナ林が北近畿最大級で広がっているわけですし、野にはすばらしい温泉がたくさん、たくさんあります。また、農業も全国最上級の丹後コシヒカリ、丹後米、またさまざまな京丹後ナシを初め、果物やいろんなものがとれるわけですよね。海のものもカニやカキや、またいろんなほんとおいしいものがいっぱいとれる、そんな町でありますし。また古くから、古代丹後王国のさらに昔から、日本最古の製鉄工場の跡があるとか、ガラス玉工場の跡があるとか、あるいは正倉院に絹のあしぎぬという絹織物のそもそものものが正倉院が持っている、我々が正倉院に出したんですけど、大切なのは、正倉院は要らんものは置いとくかへんはずですから、ここのポイントは正倉院がずっと今までも持っているというほど、当時のものとしてはすぐれたものだったんだと思うんですけども、そういう絹織物の栄えたところであるというような、これが今でも物づくりの原点というか、の繁栄を記したのが丹後でもあるんじゃないかなと思うんですけども、その遺伝子を営々と受け継いで、今も丹後ちりめんは大変厳しい状況ですけども、丹後ちりめん、また機械金属の産業が栄えているわけですし、またさまざまなバイオマスの取り組みですね、生ごみの取り組みも含めて、バイオマスの取り組みも出てきているということで、いろんな魅力ですね、またけさ、ちょうど知事に御同行させていただいて、全国最高齢、男性の112歳の木村さんところにお祝いに行かせていただいたんですけども、うちとこは100歳以上の方が70人からいるんですね、6万の人口なのに。すごい百歳長寿に恵まれているんです。このこういう健康ということとか、もういっぱい魅力があるのが京丹後市なので、この魅力のそれぞれをさらに磨き上げて、そして魅力の相互を連携をさせて、そして大勢の人に体験できるような形でそれを広げていくということで、最近では極上のふるさとづくり観光をやっていこうということで、これは市を挙げて、そんな取り組みをこれからしていこうかなというふうに思っていますけど、そういうまちづくりを柱に据えて、それぞれの分野を磨き上げながら、そんなことで域内外の交流も活性化をしていくということが方向ではないかなと思っているんですけども、これは我々のところの強みなんですね。強みをさらに生かすための取り組みなんです。

もう一つ言いたいのは、じゃあ弱みは何かというと、弱みとしてはやっぱり京阪神から遠くにあるんです。遠い、あるいは山合いですから、何か工場とか広々とした活動しようとしたときにも土地がない、あるいは人も6万、これは多い少ないがありますが、人材に限り

がある。こういう弱みを克服していく取り組みも同時に必要であるというふうに思っておりまして、ほんとに知事初め大変な御決断をいただいて、鳥取豊岡宮津自動車道も早めていただいたり、また京都縦貫自動車道もちゃんと 26 年目指してしていただいたり、こういったことは本当に感謝にたえないんですけども、こういうことを、弱みを克服する道路の整備、あるいは工業団地を今つくってますけど、こういう広場をつくっていくという取り組みですね、あるいは人材育成も「ものづくりパーク」ということで知事にさせていただきましたけども、こういう弱みを克服していく取り組みも着実にしていく。

そうすると何が起るかというと、弱みを克服するだけじゃなくって、申し上げた強みの部分が、弱みが上がってくると強みがさらにより一層の高みに持っていけるんですね。だからこの弱みをしっかりと克服していく取り組みと、強みをさらに高みへと持っていく取り組み、これをやっていくということがとても大切じゃないかなというふうに思っています。

最後に、私はいつも特に生きがいで言うんですけど、言うとしんとなって、聞いていただくのが、我々のところは近畿の一番北の端、同時に山陰の一番東の端です。同時に北陸の一番西、また南の端なんです。全部端っこなんですけど、でも逆に言えば我々のところから山陰が始まってますね。我々のところから北陸も始まってますし、我々のところから近畿も始まっているんです。だから我々のところから日本が始まっているんです。これを言うとみんなしんとして聞かれますけども、でも実際そうなんです。そういう地理的な利点というものもありますし、これは道路とかいろんなことを克服していくと、この利点が急に強みになってくると思うんです。

だからそういうまさに日本の地理的な、ある意味で重心というか、中心にあって、そういう申し上げたような強みを一つ一つさらに磨き上げていくことで、ほんとに日本に誇るべき、近畿にあってよかったな、京都にあってよかったなというような京丹後市に、ますますなっていくんじゃないかなというふうに楽しみに思いながら、させていただきます。

ありがとうございました。

○司会 ありがとうございます。

では続きまして、吉本秀樹伊根町長に、地域の将来にける思いを一言お願いいたします。

○吉本秀樹町長 伊根町の吉本でございます。伊根町はもう皆さん方の町と違いまして、小さな小さな町でございます。少子高齢化、本当に限界集落だの、高齢化率 41%、大変な町であります。しかしながら、この町にあって住んでおられる皆さんが幾つになっても、にこやかに安心して、そして豊かに暮らせる、そういうまちづくりを目指しております。

我が町は、基幹産業はやはり農業、漁業であります。漁業につきましては、これ平城宮跡ですね、6世紀末から7世紀初頭、この平城宮跡の跡から木簡が出土しております。与謝郡の伊根からみかどにイワシを奉ると。そのころからイワシ漁を行ってみかどに献上しております。そんな由緒正しき漁村であります。そんな伊根町でございます。しかしながら、今となりましては、やはり農業、漁業は大変不振でございます。

何がいけなかったのかなとよう考えますと、何でしょうね、やはり採ること、つくること、そればかりを考えていた。売ることを考えなかった、いかにして売るか。これが大きなネックであったろうと、そう思われます。今からでも遅くない、ここを何とかしたい、新製品を開拓する、市場もリサーチする、できたものをそのまま売るんじゃない、加工して食堂で出す。加えて、旅館でも経営したらどうだろうか、そこまで考えれば幾らでもやることはあるのかなと思っております。

そういう中にありまして、単体で農業、漁業を振興するというのは大変難しゅうございます。やはり20世紀は車の時代と言われましたけど、今はぼろぼろであります。21世紀は環境の時代とも言われます。中山市長にはたくさんおっしゃっていただきましたけども、やはり観光がこれからは大きな、大きな産業であろうかと思っております。我々もここに目をつけております。当然、伊根町で有名なのが舟屋であります、この舟屋群。これを核にする。とにかくこれを核にして、これに磨きをかけて世界に発信する。そのことによりまして、交流人口の倍増を図りたい。

我が町で年間25万人の方が訪れております。そしてその中に宿泊客が3万人ちょいです、3万5,000人ぐらいでありましょう。何とかこの舟屋に磨きをかけまして、そして交流人口を倍増させたい。目標といたしましては50万人を集客したい。そして3万5,000人の倍、7万人の宿泊客を何とかできないだろうか。そうすれば農業も漁業もコラボして振興が図れると、そのように私は信じてやまないのであります。舟屋に磨きをかけるにしても、大きく言えば電柱を地中化し、そして道路は石畳、そんなものにしたいと思います。なかなか、そこまでは難しいかと思えます。そこまでいかなくても、町の色や掲示物、ポスター、そういったのに制限を加える、制限というところがいまいですかね、みんなで守るべきものをつくる。それをしっかりとみんなで守る。守ったことがこの町の美しさの形成につなげていきたい。

今回、全国的な規模で今やっております。日本一美しい村グループというものに入りました。何もうちの町が日本一美しい町だとは、そこまでは思っておりません。そうなるという意

気込みがあります。その意気込みを心のバックボーンといたしまして、そしてまちづくりに当たりたいと思っております。また、逆に伊根町のことを伊根町だけで考えては無理でありましょう。天橋立には 250 万人の方が訪れております。そこから伊根の舟屋に来ていただきましょう……。そして京丹後市の鳴き砂まで、琴引浜までつなぐ、そういう線を持ちまして、私たちの思う望みを達成していきたいなと、そのように思います。

そういう意味合いにおきましては、やはり京都縦貫、26 年には全部届くわけでございますけれども、それにつながる 178 号線の、これの充実というものは本当に大事だろうかと思えますし、また知事にもよろしく申し上げたいところでございます。

以上、簡単でございますが、私の思いとさせていただきます。

○司会 ありがとうございます。

続きまして、太田貴美与謝野町長に、地域の将来にける思いを一言お願いいたします。

○太田貴美町長 与謝野町長の太田でございます。皆さん、すてきなすばらしい発言をなさっているんですが、与謝野町も合併しまして3年と5カ月が過ぎました。もうすぐ1期目がちょうど終わるときなんですけども、合併しましてすぐに与謝野町の旧3町の皆さんが、どういう町にしたいのかということでアンケートをとりました。その中で一番多かったのが、この美しい自然を守ってほしいということと、福祉の充実した町にしてほしい。それと働く場所、あるいはそうした企業が来る、そうした町にしてほしいという、そうした御意見が多かったと思います。

それらを踏まえた上で、新しい町の総合計画を立てました。その総合計画の中ではそれらの柱を置いた中身をつくってきたわけですが、一番初めの、そうしたこの自然を残してほしいという中で、具体的な取り組みがもう既に始まっております。与謝野町は割合観光の面では非常に弱い部分があるんですけれども、自然を自分たちの地域を自分たちで守っていくという、そういった意識の高い自治体といいますか、区がそれぞれ集まって一つの町になっておりますけれども、そうした中で今、先達て6月でしたか阿蘇海の環境づくり協働会議というのがございました。その中で京大の先生がおっしゃってたのに、この阿蘇海が濁っている、汚濁している大きな原因は、森林の管理が非常に不行き届きなために土が洗われて、それが海に流れ出す。それから農業につきましても、農業の田んぼの水等があふれ出て、それが結局農薬等を川に流して海へつながるということ。それから、もう一つはやはり生活雑排水が多いということ。それらの複合的な原因で、この阿蘇海が汚れているということでした。私たちの認識の中には生活雑排水が多く占めているんだろうというふうに思っております。

したけども、それぞれ森林の荒廃、これも3分の1、そして農業のそうした取り組み方の中にも3分の1ということで、それらの大きい三つの原因がこの阿蘇海の汚濁、腐敗を起こしているということを知りました。

与謝野町では幸いなことに、この後ろの地域あたりがそうした環境を保全するための農業の新しい取り組みを始めておられますし、例えばお米にしましても、今、大変丹後産コシヒカリが光を浴びているわけですけれども、京とうふというお豆腐屋さんから出るおからや米ぬか、そしてお魚のアラを使いまして、京の豆っこという有機肥料をつくっております。これは町が直営でやっておりますが、それらの肥料を使った豆っこ米というのが、非常に量は少ないんですけれども、大きく今大型のスーパー等に卸されまして、ようやくそうしたものが脚光を浴びてきております。つまり、農業においてもそういう循環型の社会を目指していこう、町をつくっていこうという非常に大きな皆さん方の思いがございます。

それから菜種油といいますか、てんぷら油の廃油を回収して、そしてそれを燃料に変えて、そしてその燃料は町の給食を運ぶ車、そしてバキュームカー等の燃料として今使っております。その油はどうするかというと、各家庭からあるいは事業所から出た油を集めて、そしてそれを使った燃料で車を走らすということで、全く与謝野町から出た油が与謝野町内のそうしたプラントで精製されて、そしてその油を使って公用車を走らせているという、まさしくそうした循環型の考え方で今まちづくりを進めているところでございます。

いろいろとそうした取り組みの中で、先ほど言いましたように、与謝野町もよその町と同じように、大変経済が厳しい状況でございます。それらの皆さん方の町の成り立ちがそれぞれ考え方、あるいは成り立ちが違いますので、安心・安全な町をつくっていく上で、やはりどうしても情報を一本化して、そして皆さんにそれを伝えていくということが必要かというふうに思って、今回光ファイバーを全地域に町内に配置をする計画で今進めております。旧加悦町がちょうどCATVをされておりましたので、それを全町に広げて、そして同じ情報を皆さんが受ける、そしてまたそれを発信していくという、住民の方たちの一体化を図る上で大きなツールになるのではないかなと思ってますのと、それから16年でしたか、台風が来ました。そのことによりまして、非常に亡くなられた方が出るような、そういう不幸なこともございました。そうした教訓も踏まえた上で、FM告知（端末器）を全戸配布しまして、いざというときにはそれぞれの住民の方に直接お知らせをし、そして逃げていただくというような取り組みを始めております。

まだまだ歩き始めた町ですので、これからしなければならぬことがいっぱいありますが、

総合計画の一番タイトル、テーマといいますのが、「水・緑・空 笑顔かがやくふれあいのまち」ということで、それらを具現化するために今一步一步、歩を進めている状況でございます。

○司会 ありがとうございます。

では続きまして、今日はゲストスピーカーとして宮津市出身の女性書道家、高岡亜衣さんに御出席していただいております。高岡さんのプロフィールにつきましては、お手元にお配りしております資料をごらんいただければと思います。

もうごらんいただきますように大変美しい方でいらっしゃいまして、お着物も大変よくお似合いなんですけれども、ようこそお越しくださいました。

○高岡亜衣 ありがとうございます。よろしく願いいたします。

○司会 よろしく願いいたします。突然難しい話ばかりになってしまって、どうしようという感じじゃないかなと思うんですけれども、いかがですか、ずっともうこちらで丹後で産まれて、育ってということですが、何歳ぐらいまでこちらにいらっしゃったんですか。

○高岡亜衣 高校の18まで、宮津市出身で。

○司会 宮津のどのあたりですか。

○高岡亜衣 宮津の須津です。

○司会 須津ですか、なるほどという感じだと思うんですけれどもね、皆さん。また、一たん外に出られて、今教室がこちらの方にもあるということで、何日ぐらい通われるんですかね、月のうちで。

○高岡亜衣 月2回です。

○司会 月2回ということで。

○高岡亜衣 2週間に1回はこちらに戻ってきて、皆さんにいろんなことをお伝えできればと思って始めたんですけども。

○司会 じゃあ、少し離れてから、また行ったり来たりするようになって、また若いころ、学生のとときと違った観点、あるいは意識で丹後を見ることができるようじゃないかと思うんですけども。

○高岡亜衣 そうですね、本当にいたときは、あるものすべてが当然のように、やっぱり思ってたところがあるんですけども、離れたからこそ本当に自然のよさというのがしみじみとわかりまして、本当に山や海、天橋立や本当にすばらしいものがいっぱいあるなというのが、もうそれがすごく心地よくなって、今感じております。

○司会 なるほど。今現在お住まいは京都市内ということで、京都市内にもまだまだたくさんいいところというのは残ってるんですけども、それでもやはり丹後の方が。

○高岡亜衣 そうですね、もちろん京都市内のよさもあります。ただ本当にこちらは、何というんですか、本当に大自然の空気もきれいですし、そういう何というんですかね、自然が作り上げたものというか、本当に素晴らしいというのが、本当に出たからこそわかるんです。

○司会 なるほど。じゃあ、また、それが作品にもきっと。

○高岡亜衣 かなり影響しております。

○司会 そうですか。

○高岡亜衣 こちらで作品づくりがすごくやっぱりしたくて、こっちに戻ってくるとイメージとかを自分の中で注入をして、市内に戻ってつくっております。

○司会 そうですか。じゃあ、たくさんもう、あれもこれもということでたくさん出てきますよね。

○高岡亜衣 そうですね、本当にいたところは行かなかったところとか、つい最近も本当に天橋立を観光したり、伊根の舟屋の方まで足を運んで、ああ、素晴らしいなと思ったり、あとお水がやっぱり今本当におっしゃったように、とてもいいお水というのを聞きまして、それを見に行ったりしております。

○司会 見るもよし、触れるもよし、食べるもよしと。

○高岡亜衣 本当に素晴らしいところだと思います。

○司会 そんな作品の数々を少しだけ、きょう皆さんにもごらんいただけるようにロビーで展示させていただいてるんですけども、購入方法など、お問い合わせ先というのがちょっと出てなかったんです。それで、それはどういうふうにすればいいでしょうかと、少しお尋ねをいたしましたら、そしたら書楽Room事務局というところに問い合わせを。

○高岡亜衣 していただきましたら対応させていただきます。

○司会 よろしいですね。ホームページの方が shorakustaff@yahoo.co.jp と。

○高岡亜衣 メールアドレスですね。

○司会 メールアドレスですか。

○高岡亜衣 ホームページは私の、書道家で。

○司会 失礼いたしました。ちょっと検索をしていただかないと。お名前を入れさせていただいたら。

○高岡亜衣 書道家高岡亜衣と打っていただきますと、もう一番に出てきますので。

○司会 じゃあ、そちらの方からもアクセスしていただいとということになりますね。

問い合わせのお電話番号も 090-5630-4349、繰り返します 090-5630-4349、こちらの方へということで、本当にすてきな作品を、じゃあ、これからも丹後でつくって。

○高岡亜衣 そうですね、本当につくりたいと思える場所なので、こちらが。なので、おいしいものを食べて、自然を見て、それでほんとに自分の中に感じ取って市内に戻って、どんどんつくっていきたいと思ってます。

○司会 市内の方にたくさん買っていただくということになるんですかね。

○高岡亜衣 いろんな方に見ていただければ。

○司会 そうですね、きょうまたいろいろとお感じになったことをよろしかったら、お伝えいただけますように、御協力をお願いいたします。

○高岡亜衣 ありがとうございます。

○司会 さて、大変たくさんの思いをステージの皆様方から、今伺いをいたしました。

本当に丹後共通しているという部分というのが、たくさんあるんじゃないかなと思っております。ステージ上でも意見をやりとりさせていただこうかなと思っておりましたが、もうここはやはり会場の皆様と一体になって御意見を交流させていただければと思いますので、これから京都府の未来や地域への思いについて、お話も伺っていきたくと思いますが、まず、ちょっと一段落ということで、ここで山田知事からこの首長さんたちのお話をお伺いになって、感想などがございましたら、簡単に一言まとめていただいとよろしいでしょうか。

○山田啓二知事 そうですね、丹後の地域、宮津・与謝の地域というところの、それぞれの特徴と思いが今の首長さんたちの話からもすごくうかがえたんだと思います。やはり、京都の中でも一番豊かな自然と環境を誇っている。本当に人々の心安らぐ地というんでしょうか、住むことによっても、訪れることによっても、自然の恵みから、多分高岡さんも一緒だと思うんですけど、大きな力を得ることのできる、そういう地域ということの誇りを、私はやっぱり一番最初に感じましたし、ただ、そうした中で、逆に言うと自然や環境が素晴らしいものが残っているということは、非常にある面では不便な地域、これは多くの首長さんが京都縦貫自動車道でありますとか、178号とか、そうした基礎的な交通基盤、これは多分KTRも含めてだと思っんですけども、そうしたものがまだこれからつくっていかねばならない部分があることに対する、未来に対する一種のいらだちもあるのではないかなと。

せっかくの自然を持ちながら、それを生かせるだけの、まだ基盤が十分できていない。そうしているうちに、この地域は京都でも一番高齢化の進んでいる地域でありますから、福祉と

か、医療とかといったものをしっかり整えていかなければならない。その点から申しますと、まだつくっていかなければならないんだけど、それと同時に福祉とか、医療とか、高齢化対策をやりながら自然環境をどうやって生かすかという、なかなか回答としては難しいものに挑まなければならないんだというふうに思います。

でも、そうした回答に挑んだときには、多分この地域に住むことによって力をもらえるし、この地域を訪れることによって力をもらえる、本当に人として暮らしていく、人として訪れるのに最適な力を持った地域という、そういう原石という言葉があったんですけど、この持っている地域だからこそ、私は夢の持ちがいもあるんじゃないかなというふうに思っておりまして、ぜひとも大勢の、これから皆さんにそうした中での地域の将来についての積極的な提言、提案をいただきたいなと思いました。

○司会 ありがとうございます。

さあ、じゃあ実際に住んでおられる方がこういうことがいいんじゃないだろうか、ああいうことがいいんじゃないだろうかというふうな御意見をお持ちかと思えます。ここからは京都府丹後地域の未来、京都府に望むことについて、会場の皆様と意見交換をさせていただきます。

発言の御希望の方をお願いいたします。手を挙げていただきまして指名をさせていただきました方に、係の者がマイクをお渡しいたしましてから、最初にお名前を言っていただき御発言ください。なお、初めをお願いしましたとおり、できるだけ多くの皆様のお声をお伺いするため、発言は2分以内をお願いいたします、もう早い者勝ちになってしまうかもしれませんので。

では言ってみよう、こんなことどうだろうと思っておられる方、手を挙げていただいてよろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。じゃあ、あちらの方からどうぞ。

○発言者1 よろしく願いいたします。

1点は、まず最初に山田知事さんにお礼申し上げたいのは、前回SARSのときと同様、私もドゥラさせていただいた分もでございますけども、いち早く陣頭指揮をとっていただきまして、また補正予算なんかもお考えいただきまして、まことにありがとうございました。

お願いしたいといいますか、意見といたしましては2点申し上げたいと思います。1点は、京都府と3市2町の行政、それから民間で構成いたしております丹後広域観光キャンペーン協議会というのがございます。これは常々メンバーにも言ってるんですけども、他府県に類

を見ない組織であるというふうに思っております。今、御存じの方も多いと思いますが、観光が大変変化しております、体験型観光だとか、時間消費型観光だとか、さらには地産地消ということも声高らかに言われております。

漁業に関してはある程度、漁連とか仲買人の方とか、単組の漁業組合とか、それぞれ組織があるんですけども、農業に関しては直接消費者と農業の方たちが結びつく組織がまだないわけなんです。したがって、府が直接手を下していただかなくても、そうした組織づくりのきっかけをお願いしたいなど。それによって、大きく地産地消が進んでいくんじゃないかなと考えております。

もう1点は、先ほどから出ております天橋立を世界遺産に、これは地域を挙げての念願でございます。これの天橋立の構成要因の大きな一つを占めます阿蘇海。先ほど太田町長もおっしゃいましたが、これの環境改善の問題、これは平成5年あたりから検討は進めさせていただいております、今は府、1市2町の行政、民間での組織ができ上がっておりますが、専門家の方にお伺いいたしますと、阿蘇海へ流入いたします負荷は浄化力の2倍だと。ですから、このまま放っておきますと、どんどん汚染が進んでいくという結果になると思います。専門家の方がおっしゃるには、シーブルー計画は今やっていただいておりますけども、もう少し具体的な方策が必要な時期に来てるんじゃないかなということをお伺いしております。

さらに近年、急速にカキ殻によりまして、海の深さが浅くなっております。特に、文殊堂の裏側あたりは昔てんころ船レースをやっておりましたが、もう今は到底、底がつかえて、船さえ走れないというような状況になっています。

こういった2点に関して、京都府としてお考えいただければと思います。よろしくお伺いいたします。

○司会 これはもう京都府と、そして各市町、皆様方で取り組んでいただかないといけない問題になってしまいうんですけれども、じゃあ、知事をお願いしてよろしいですか。

○山田啓二知事 やはり丹キャンと通称、呼んでおりますけれども、この地域の未来をつくり上げていくためにも、連携というんでしょうか、きずなというんでしょうか、この部分は非常に大切だというふうに私も思っています。特に豊かな自然とか、豊かな環境、そして観光資源、そして食べ物の面においても本当に海の幸から山の幸まで豊富なものがあるわけですから、これを一つの観光の中でトータルに連携をしてきちっと提供できる、そういうまだ仕組みがないんです。

観光キャンペーンの方は一体化しているんですけれども、さらに私たちは宿の問題とか、温

泉の問題とか、今おっしゃった農業の問題でも、本当に連携をしてきちっと提供できる、そういうシステムというものをつくっていかねばならないと私も思ってます。特に、やっぱり丹後・宮津・与謝の地域は、京都というんでしょうか、近畿の中の私はフードパークというんでしょうかね、ほんとにすばらしい食材、すばらしい自然の恵み、これは間違いなく、どこにも引けをとらないというふうに思っております、例えばお米ですと、西日本で唯一2年連続、ことしは3年連続に挑んでおりますけれども、丹後コシヒカリというのは、それはもう本当に最高のお米がとれるわけですし、そしてトリガイ、岩ガキ、それから伊根の黒アワビとか、こうした海の幸にも恵まれてる。もう間人のカニは、これは言わずもがなの、これは全国レベルですけれども、そうしたものをやってるし、山の幸でも本当に多くのものがありますし、ことしは随分、有害鳥獣問題もあるんですけれども、イノシシなんていうのはこれからの食材と申しますか、これからの大きな、私は売り込むものとして、ボタン鍋というのは大変な力を持っているんじゃないかと。こうしたものがやっぱり地域全体の宝として共有されて、そして地域全体で盛り上げていかねばいけない。

やはりカニが力を持っているのは、丹後はカニという、そういうイメージの中でしっかりでき上がっているわけですから、丹後に来るとこれが食べられて、そしてそれはどこでも、行っても本当に質の高いものが食べれるんだというネットワークをつくっていかねばなりませんし、そういうことが観光とか、ほかのところの地域の連携とも相まっていくように、私はやっていくというのが一つの未来ビジョンとしては大きいのではないかなというふうに思います。

それから天橋立はその中で何ととっても、これも日本三景全国レベルというだけではなく、いよいよ世界レベルにしていくことによって見直していかねばならない、再生していかねばならないというふうに思っております。天橋立というのは別に、最初は偶然、自然がつくり上げたものかもしれませんが、それから本当に私たちの先人が物すごい努力を積み重ねて、今の天橋立を守ってきております。あの白砂というのも、一生懸命海岸線を維持するためのさまざまな工夫を凝らしておりますし、青松、松も最近でも1本、1本の松に注射を打って守ってきた。まさに人と自然とが織りなしてつくり上げてきた日本の原風景であります。

それを世界の遺産にしていきたいという思いは、ここにいらっしゃる人みんな共通の思いだと思っておりますから、それをしっかりとやっていきたい。そしてそのためには、天橋立だけ守っていたんではこれ仕方なくて、回りの阿蘇海がきれいでなければ、まさに世界に誇る

天橋立にはならないわけであります。これは先ほど太田町長の方からありました、山が荒れているのではないかという話もありますし、例えばまだまだ下水が十分に整備されていないのではないかといったような問題もあります。それから養殖の方の問題も今指摘されておりますので、いろいろな角度からこれをみんなが協働して、ある面では天橋立を生かすためには本当に力を合わせてこの問題に取り組んでいかなければならないというふうに思っております。京都府として、ここにいる市町村みんなで力を合わせて、まさに天橋立という日本の、世界の宝というものをこれからさらに輝くというのか、未来に向かって本当にもう一度宝として再生できるように努力をしていきたいと思っております。

○司会 ありがとうございます。

このことに関してはきっと各町長、市長、そして今井さんも話したいんだということがたくさんあるんじゃないかと思うんですけども、済みません、時間が限られておりますので、またの機会にじっくりとお話をお伺いできればと思います。

でも、本当に多くの皆様方と一緒にあって、いろんなことを取り組んでいく、これはやはり丹後ならではの、できるんじゃないか、このように皆さん仲よくこうやって同じような発想でお話になるということはまず少ないと思っておりますので、必ずできると信じておりますので、よろしくお願いいたします。

さて、ほかの皆様方、いかがでしょうか。どのような御意見でも結構でございます。せっかくでございますので、ぜひ手を挙げていただきまして。えらくおとなしい方が多いようだけれども。

ありがとうございます。じゃあ前の方の方。マイクをお持ちいたしますので、少しお待ちください。

○発言者 2 宮津の日置に住んでおります。私は大阪から10年以前にこちらの方に永住組みで来たんですけども、大阪と比べて規模的にもちっさいところなんです、大阪ということはいくらもう5兆円の赤字でもうつぶれかけてるということで、見切りをつけてこちらに来たんですけども。また、市の役人たちもええ加減なことばかりしてますんで、宮津市ももうちょっとしっかりしていただいて、頑張ってくださいように。今言われたように、皆さん環境のええところで年いったら必ず田舎に住むことというのは、もう大阪に住んで汚い空気から比べると非常に健康的にもええと思っております。

そういうことを大阪の人にも宣伝はしとるんですけど、永住していただいて人口を増やすために努力、市長の言われていることを目標にしてやっていますが、何せ田舎に来ると都会もん

はよそもんだという見方が多いんで、その点を含めて日置の方に住みまして、自治会の方も立ち上げました。というのは、やっぱり田舎の自治会と都会の人とはなかなか話が合いませんで、そういうことをしてつくったんですけども、一番最初にぶち当たったんが、この6月から宮津市の合併槽の援助、2万円というのがあるということで、し尿槽を調べたところ、かなり業者がええ加減なことをしている節があって、お金の返還とかということをやりました。

中山市長のところでは業者の不正が刑事告訴をされたということも聞いておりまして、宮津の方ももうちょっとしっかりして管理していただくように。それと府の方から下水に関して、14年ごろに権限移譲されたということも聞いておりまして調べたところ、資料を何も持っておられないんですね。どういう機械が設置されてるとかということが、宮津市の下水道の方で何にも持っておられないということが調べていくとわかりまして。府の方の杉ノさんですか、上下水道の方にも連絡していろいろ調べていただいて、下水の方も立ち会い、保健所の方も、市も府も立ち会いで浄化槽の検査までしていただきました。

そういうことも含めて、皆さん、自分の浄化槽についてほとんど無知なんですね。業者が来ても、見ましたよ、ああ、そうですか、御苦労さんでしたというぐらいのもんで、実際立ち会いで見てる人はほとんど皆無に等しいと思います。もうちょっと府も市もそういうようなことを市民に勉強さすようにしていただくようお願いしたいと思います。

自治会長さんの方でも、やっぱり皆さんの家の毎日のことですので、やっぱりそういうことをきちりとしておかないと、余り使わないところは1年に1回の掃除もええかげんにしてるとかということも、かなり見えないところであるし、それと計量メーターのことでやっぱり坂のとことか、傾斜地では満タンに入らなくても満タンのお金を取るとかという節がどうも見受けられますんで、そういうところも含めて、もうちょっと府も市も勉強していただいて、我々に行政指導をしていただくようお願いしたいと思っております。

以上です。

○司会 ありがとうございます。

各市、各町、本当に丹後はいいところだということで、大阪、あるいは京都、もっと遠くの方からもたくさんの方が随分と移住をしていただいているようなんですけども、いろいろなことが本当に、思わぬことが起こっているようで、今井さんが初めに言われたように、昔の村単位でのコミュニティということの構築というのは本当に大変じゃないか、必要なんじゃないかというふうなことから、恐らく始まっているようだと思うんですけども、とりあ

えず日置ということで宮津ということになりますので、井上市長、いろいろと努力はなさっていらっしゃると思うんですけども、まだまだ頑張っていただかないといけないということなんですけれども。

○井上正嗣市長 お話がありましたように、水洗化の方については初めて本当に思いきってやり始めたとかだというふうに思ってますので、今後とも一緒になって環境保全のために進めていきたいというふうに思ってます。本当に阿蘇海をきれいにするためにも下水道が必要だと、また周辺の宮津湾の方も含めてきれいに、環境保全するために必要だという形で、これまで宮津の方の下水道の取り組みというのは宮津湾流域下水道を中心にしてやってきてまして、けどもなかなか十分に進んでこなかったというのが現状でして、これからは本当に周辺の方の地域も含めて、環境保全するためにいろんな水洗化の方を進めていかなきゃならないのではないかなと思ひまして、今年からですけども、思い切って宮津湾、市街地以外の周辺の部分についても浄化槽に踏み込んで、そして環境をきれいにしていこうという取り組みを始めただけですけども、本当にその中で初めていろんな問題があることも多々わかってきたようなことだというのが現実だと思ひまして、こういうことも今後、本当に一層環境保全のために取り組んでいかなければなりませんので、一緒になっていろんな問題点を克服しながら、阿蘇海、また宮津湾、また周辺の環境保全のために頑張っていきたいというふうには思っております。そのときにまたいろいろといいアドバイスをいただければ本当にありがたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

○司会 ありがとうございます。

もう一言ではなかなか、ここでどう解決するということにはちょっとつながらないかもしれませんが、今後とも行政の方と一緒に取り組みをお願いしたいと思います。

さて続いて、ほかの方、どなたかいらっしゃいませんか。あちらの男性の方、ありがとうございます。

○発言者3 済みません。京丹後市からまいりました。ちょっと私も小さな不動産を扱っている業者なんですけれども、農地法という昭和 28 年ぐらいにできた法律が非常に、京丹後市の北部の方で空き家がぼつぼつ出始めている中で、この空き家を処分してくれというようなお話もあるわけなんですけれども、そこにお隣に小さな畑があると、これは農地であるから処分できないというのが農地法の法律なんですけれども。でき得れば、私どもは今後高齢化で、京阪神等々から数多くの京都市内の方々の高齢者も迎えたいという中で、特区という一つの法律を私どもはちょっと勉強させていただいてまして、この特区という法律を京都府の知事さ

んにちょっとお尋ねしたいんですけども、例えば酒は個人、地方ではつくっちゃいけないと、今、町長さんもいらっしゃいますけども、特区であつたらその地域でどぶろくもつくれるというような一例もありますし、今後そのような法律を真剣に勉強して、迅速にローカルの方でも、そういう特区を使っていたらいいのとか活用していただいて、そして農地の一部も購入しながら、古い館に灯がともるような、そういう施策をぜひお願いしたいと、かように思いますので、本日喜んでこの和い和いミーティングに参上いたしましたので、よろしくお願ひいたします。

○司会 知事、御指名でございます。

○山田啓二知事 まず農地の問題なんですけど、なかなか結構国がうるさいんですね。それに対して、私どもはやはり地域のことの実情を一番よく知っているのは我々だから、今おっしゃったように空き家になったところに、みんなが移住できるような形でいくときに、農地法のいろいろな許認可の方が余りかかり過ぎることがないようにしてもらいたいということを書いておまして、これは調整区域も含めて大分緩和はされてきました。ただ、まだ手続自身が残っちゃっておりますので、自由にできるということまでは来ておりません。

しかしながら、多分市町村の方でもあらかじめ、そこに一定の計画を定めてやっていけば、それが外れるというものがじりじりと出てきておりますので、その面で我々も市町村と一緒に、できる限り有効に、簡単に都会からあいた空き家に対して人が住んで、一番いいのはそこでまた農業をやっていただくのが、本当は一番地域を守る、環境を守る上ではいいんじゃないかなと思いますけども、なかなかそうはいかない面もありますから、そうした点について配慮しながらやってきたいというふうに思っております。

特区というような話もあるんですけど、特区はちょっと意外と面倒くさいところがありまして、さっきの例えばどぶろくの場合ですと、実は昔から慣習でどぶろくをつくってた。どぶろく祭みたいなものを地域でやってたというふうなところが特区で指定されていて、全く何もなくてから特区で指定しようとするとなかなか面倒くさい話になってくるということで、特区自身が最近余り増えておりません。私はやっぱりこの部分というのは、もう一度地域が観光や特徴を生かしていく分には、この制度というものを少し柔軟にやっていきたいというふうに思っておりますので、そうした面については、これは市町村長さんと力を合わせてしっかりと運用できるようにしていきたいというふうに思っております。

なお、空き家につきましては、空き家のデータベースもつくっておりますので、ぜひともそういうのを活用していただきまして、積極的に商売にも利用していただければありがたいとい

うふうに思っております。また、農業をやる人にはぜひとも、私たちは実践研修農場というのをやっております、そこに行きますと、きちっと農業のイロハから地域で教えてもらえるという制度もありますから、それを使っていただきますと、全体として空き家とその横にある農地がうまく活用できるような仕組みにもなっておりますので、そうしたことも教えていただければ、都会の方も安心して京都に来れるんじゃないかなというふうに思います。

○司会 ありがとうございます。

そしてもう一つ付け加えさせていただきますと、京丹後市内にNPOパートナーシップセンターというものが、京都府下に幾つかあるうちの丹後版があるんですけども、その中のNPOで田舎暮らしというグループがあります。丹後の空き家を都会の方に紹介して、こちらで修繕のお手伝いをしたりしながら、こちらの方に移り住んでいただくというふうなことで活動されておられる方もありますので、またよろしかったらそちらの方とも一緒に、NPOではございますけれども、活動もしていただけるといいんじゃないかなと思いますので、御協力もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、ほかの方はいかがですか、あちらの女性の手が拳がりましたので、女性からお願いしたいと思います。

○発言者4 宮津市木子から来ました。私は平成元年に主人と家族そろって農業をしにやってきましたけども、5年後の平成5年に自給自足したいなということで、ペンション自給自足という民宿をやっております。今、言われた方にちょっと関係あるんですけども、若い人で、雪がとっても深いところなんですけど、住みたいという人がいてるんですけど、逆に先祖からいただいたもので、貸すこともできないし、売ることもできない、そういうところが多いので、それを何とかしていただいたら若い人が定着するんじゃないかなということが一つと、それとペンションを15年してたんですけど、初めは観光というのは天橋立を見て、舟屋を見て、そういう名所、それが主流だったんですけど、今やっぱり観光が変わってきて、体験とか、うちは蛭が今ハイケホテルなんで、今からぼつぼつ出るんですけども、とにかくおばちゃん、どないして生きてんのと、そういう質問が多いんです。

それと年いった方は、年金がもう何ていうの、どうなるかわからへんけど自分たちは大丈夫かな、でも何かちょっと心配ということで、できるだけ安く生きていける。そういうのにすごく若い人が興味あるんです。だから、私はぜひ自給自足村、何でこんなことを言うかというたら、今電力が、ハイブリッド車ができて、電気自動車ができますね。石油資源は日本はないので、電気さえあったら何とか自給自足できるなということで、それで自給自足村をぜ

ひ、丹後は自然が豊かなので絶対いけると思うんです。今主人はちょうど平成 16 年の台風で、倒れた木で家をぼちぼちつくってます。それは都会でしたらそういうことはできないんですけど、結局時間がたってみれば、家ができたら稼いでるということになるので、そういう何ていうのかな、住宅を建てるということで人を呼ぶことも大事なんですけど、例えば 10 万円で生きていけんでという、そういう家をつくる。電力も自給する。そういう何かよそから見て、ああ行きたいなというような、そういう町、私たちは過疎地なので村になるんですけど。

自給自足というのは食べ物だけじゃなしに、介護まで。今、日置に青嵐荘という老人ホームがあるんですけど、それだけを建てるんじゃなしに、保育所と学校と併設して、子供を見たらお年寄りも和むし、子供の力というのはすごいんで、介護も子供ができたり、いろんな部分でトータルのものをつくっていただけたらと思います。

○司会 ありがとうございます。

まさにそのとおりかなという気もするんですけども。たくさんのお思いを今伝えていただいたんですけども、例えば電力、発電といいますと、太鼓山に風力発電がございまして、雷が落ちて大変やと言いながら、でも頑張って動いてくれてるんですけども、そのふもとで反対側、伊根町にその風力発電が立ってまして、その反対側、京丹後市の方には風のがっこう京都という、いろいろとエコについて考える施設がありまして、ステファン・スズキさんとおっしゃる方がそこをつくるときに本当に尽力なさいまして、その方のお考えもやはりバイオマスの事業の中には組み込まれてきたんじゃないかなという気もします。

これはどうしましょう、ごめんなさい、時間がないので少しずつなんですけれども、伊根町の吉本町長と中山泰京丹後市長に少しずつ、トータルで大きくなって難しい話ではありますが、一部でもいいので少し、今こんな現状だとか、何かすごくいい夢を語っていただいたんですけども、何かヒントになるようなことがあれば。うちも頑張って売り込まなあかんのんやと、さっきおっしゃってたんですけども。

○吉本秀樹町長 いや、今言われたとおりで難しいんですね、問題が。我が町も、例えば船宿を売りに出そうという、ああいった舟屋とかね、たくさん母屋もあるんですね。あるけどね、売らない、貸さない、いわゆる年に一遍ぐらい帰ってくるから置いとくと。何とかしてくれないかなと、ヤダの方に行きますとこれはあいたおうちもありますね。じゃあ、売らない、貸さない、じゃあ、がたがたして、もうちょっときれいにしてほしいとか、どうでもいいんだったら取り壊してほしい、しない、そのまま。これ個人の財産ですのでね、なるべく我々

の趣旨にのっとって御協力願えないかということで、我々のところでも田舎暮らし的なもので、舟屋なんかあっせんしますよと。あいとったら言うてください、貸したい人、借りたい人の間をとりますということでやっとなるんですけど、まだ1件の案内もないわけです。大変悲しくて、つらいなと思っております。

太鼓山の発電所ですね、これは京都府さんに建てていただいたんで、大変ありがたくて、いい施設で、本当に地元の貢献にもなっておりますけど、ちょっとなかなか電力はうまいこと出ないんですね。ちょうど過渡期だったんですかね、Lagerwey社の発電機なんですけど。どうもあの時代に、設置したところがどうも発電機の過渡期だったらしくて、その後には何かよりよい発電機が出て、よく発電する、とまらない、雷にも強い、そういうのがたくさんあるらしいですけどね。今はちょっと弱いかなと、発生量がもう一つで、何とか頑張れないかなと思っております。何で、太鼓山というのかと言うと、太鼓というのは雷様のとんでんでんの太鼓で太鼓山というんで、おまえらそのことをはなから知らなんだかなんて話に今なっているようですけど。いやいや、そんな状況でございます。

市長よろしく。

○中山 泰市長 司会の松田さんから大変強引なお振り方だなというふうに感じておりますけども、自給自足の村づくりのための環境整備ということだと思いますけども、先ほど私が冒頭申し上げさせていただいたことの中に、今、京丹后市として本格的にやり始めたことに、京丹後丸ごと、極上のふるさと観光づくり、こういうのをやっといこうということで、市全体でやっといこうということでやっとなるんですけど、これは観光だけじゃなくて、昔の観光地をですけど、昔というか、これまでの通常の意味の観光事業だけではなくて、農業とか、漁業とか、あるいは丹後ちりめんもそうですね、あるいは機械金属の物づくりもそうだし、いろんなそういう市の資源を活用して、そして体験していただくような、そんな観光づくり、交流の環境づくりをやっといこうということでやり始めたところなんですけども、これは突き詰めて言えば、都会の皆さんを初め域外の皆さんのいろんなことを体験したいというようなことを、いろんなツールで実現していくための取り組みだと思いますけども、その中の一つにそういう自給自足を体験してみたいというような人に対して、さまざまな環境ツールを用意していくということは、とって我々の特色を生かせることなので大切なことだと思います。その上で、空き家を今しっかりと、今もやっとなるんですけど、もう少し民間の皆さんと協力して、規模を持つ形でプレゼンテーションできる形の準備を進めながら、同時にさまざまな農とか、あるいは林とか、いろんな環境も同時に連携をして用意できるような体制づ

くりというのをし始めつつあるところですので、ぜひ宮津の中でも大いに活動していただきたいと思いますし、京丹後の方にもぜひ来ていただいて、仲間を増やしていただいてやっていただいたらとってもありがたいと思います。

その中にバイオマスの発電事業というのもあるんですけど、いろいろ課題を抱えながら懸命に市内で議論をしていますが、何とか前に進めたいなというふうには真剣に思っておりますので、いろんなことで自給自足というのは循環型のまちづくりだと思いますけど、そういったのも加えながらしていきたいなというふうに思っております。

○司会 私の強引なお誘いに答えていただきましてありがとうございました。

本当に民間、行政が協働でいろいろとやっていかないといけないということで、各市も、各町も、そして京都府もいろいろな取り組みをやっておりますので、懲りずに御協力をお願いしたいと思います。

さて、ほかの皆様方、先ほどの方、お待たせいたしました。じゃあ、あちらの方にお願ひしましょうか。

○発言者5 私、宮津市滝馬から来ました。知事さんにお伺いしたいんですけど、先日、わち一安国寺間の縦貫道がオープンしまして大変便利になったんですけども、ことしの3月で一応野田川一宮津間の一応トンネル工事が終了したようなんですけども、その後の舗装工事、それから高速道路の実際のオープンに向けての予定とかをお聞かせ願えましたらありがたいんですけども。

それと今後の、行く行くは豊岡方面までつながるであろうというふうに期待をしておるんですけど、その見通しと。それから丹後半島一周道路の岩ヶ鼻、大島、平田トンネルが開通しまして、大変伊根方面には行くのが便利になりましたんですけども、その先の本庄宇治から蒲入へ抜ける道路が大変狭い状況にあります。蒲入側にはトンネルを受けるバイパス道路の受け道路といえますか、そういうのがちょっと下準備的にはしてあるようなんですけども、今後のそのトンネル工事の見通しなどをお聞かせ願いましたらありがたいと思います。よろしくお願ひします。

○山田啓二知事 まず、京都縦貫自動車道は全線開通平成26年を目指して、今頑張っておりますけども、その中で野田川と大宮間についてはトンネルはもう通じましたんでね、あとはもう最後の舗装をやってますので、これはできるだけ前倒しでいこうということで、ことしの予算でも1年間先に、もう来年にはいけるんだという形でいこうと思っておりますから、もうちょっとだけ待ってください、もうあと少しまで来ましたので。

それから先なんですけれども、ようやく国土交通省の方でも調査を始めようということで、取りかかきのきっかけができてまいりました。今までは正直言ってどういう形でどういう事業でやろうかというところが未定だったんですけれども、多分、国の方でやってもらう形で話が進められるんじゃないかということで期待をしております。ですから、それは新しい形で、今までの有料道路ではないと思うんですけども、無料化という形になると思いますけども、そうした方向で、進む道が今ようやく見えてきたというところで、我々にはできる限り、それにも早急に取りかかっていきたいというふうに思います。

京都縦貫自動車道は、あと今年の秋に和知の方の下山というバイパスができますので、これができるのと、また難所が一つなくなりますから、その点でいきますと時間的にはこの下山バイパスで本当に大体、少なくとも京都市に行くまでは8割から9割ぐらいは完成に近いようなところまで行けるんじゃないかなというふうに思っていますから、本当に今年、来年で、また着実に丹後と京都市内までの距離、これは縮まっていくと思っています。

それから丹後半島の方は、今、養老伊根バイパスの方が大体でき上がってまいりました。私としてはやっぱり京都縦貫自動車道という縦の背骨があって、それを今度面的に生かすためにも丹後半島の一周を観光バスが通れるようにしていきたいなというふうに思っております。そうすると丹後を一周して、そして京都縦貫で帰ってくる、または京都縦貫で行って、丹後をずっと回ってというような、本当に新しい観光ルートが面として広げることができまので。今ですと、伊根の途中まで行って、また戻ってきてから、また京都縦貫で行かなきゃならないから、ほかの道を通っていくとまたこれも大変狭いところばかりですので、なかなか大変だということでもありますので、ぜひとも次の段階として、蒲入の方に、ちょっとバイパスが途中で途切れていたんですけども、これを今、再開する検討を始めました。この絵をしっかりと書いて、丹後一周、みんなで多くの方々がバスで行けるような、そういう将来に向かって進めていきたいというふうに思っています。

○司会 ありがとうございます。時間もそろそろ少なくなってきました、あとお一人、お二人じゃないかなと思うんですけども。

いかがでしょうか。男性の方が多いんですけども、子育てでこんなこと困っているとおっしゃる女性の方、おられませんでしょうか。丹後はええとこやから、そんな困ることはないよということになりますでしょうか。それじゃあ、ほかの皆様方、あちらの男性をお願いしましょうか。

○発言者6 御苦労さまです。壇上に席を設けられている皆さんから、丹後は自然と文化、環境、

歴史が豊かだというお話がありまして、その中心はやっぱり天橋立というこの自然の恵みをどう私たちが生かし、将来に継承していくかという課題だというふうに思っていますし、京丹後の市長からもお話がありましたように、丹後一円が美しい自然海岸ということになっています。

あるとき、雑誌を読みますと、100年間で地球温暖化が進み、海水が1メートル上がるといふことの記述がありました。先ほど井上市長からお話がありましたように、天橋立が訴えておると、1メートルもついたら、わしら生きられへんでということをおっしゃられて、何としても環境対策に力を入れなければならぬというお話だったというふうに思います。ところで、100年で1メートル上がると、1年で1センチずつ海水が上がってくることになるわけです、計算上は。この天橋立をどう守っていくのか、ある技術者に聞きますと、5年や10年おきに天橋立に10センチも30センチも砂を盛ったら、必ず松が枯れるということをおっしゃられます。したがって、やるとするならば毎年のように1センチとか2センチずつ、薄く薄く根に負担をかけないような対策を講じないと、天橋立の保存というのは難しいのではないかと、こういう御発言がありましたが、この温暖化、海水の上昇、気温を含めて、これは丹後だけじゃなしに、日本、世界じゅうの問題だというふうに思いますが、我々も期待して天橋立の世界遺産などを含めながら、京都府としてはこれらの課題にどう対応されているのか、今後の課題も含めて、御回答がいただければ、お話がいただければありがたいと思っております。

以上です。

○司会 ありがとうございます。

京都府としても、各市町あわせて一緒になって動いておられるところだと思っておりますけれども、この天橋立について知事にお伺いするというよりは、今井さんにお伺いした方が早いんじゃないかと思っておりますけれども、いろいろな活動を今されておられますけれども、いかがですか、お忙しい毎日じゃないかと思っております。

○今井一雄 今の質問は知事が答えるべきだと思いますけど。一つ言いますと、今、温暖化で確かに100年後こうなるとかいう、いろんな環境問題の数値が出てます。私はエネルギーを扱ってるんで、子供ときからいまだに50年たったらなくなります。もう、いまだに同じこと言ってるんですね。だから、これは人間はある程度皆さんが理解をして、努力して改善をしていけば、それはそのとおりはなっていないということが1点あると思っております。ですから、100年後には1メートル海水面が上がって、そしたら宮津の町、天橋立だけじゃなくっ

て多くの町が水没してしまう。そんなことには人間は絶対していかない、それだけの努力はするということに思っています。

ですから、天橋立の問題についても、私はずっと子供たちの学校関係に行かせていただいているのは、そうしないために、皆が今気づいて、今、皆が環境問題に取り組むべき。また、皆が自分の天橋立だけではなくて、自分の家の玄関先から掃除を始めたり、どぶ掃除を始めたり、そういう意味において、みんながそういう環境に意識を持っていく、自分のところから汚いのは流さない、そういう意識を持っていくということが一番大事なことであって、これも今、天橋立で取り組む中の大変大事なテーマでありますので、ぜひ 100 年先に 1メートルも上がることには絶対にしないように、我々が今その意識を持ってこれに取り組んでいき、100 年先にも同じだねと我々の孫が、ひ孫たちが言えるような世界に是非なっていければと。そのための運動であるというふうに、これも御理解いただきたいというふうに思います。

あとは知事に振らせていただきます。

○山田啓二知事 二つ大きな問題がありまして、一つは地球環境の問題、これは多分宮津だけでもだめ、京都府だけでもだめ、全世界がやっぱり同じ思いで、手をつないで地球温暖化対策にやっぱり乗り出していかなければならない。そして、そのときにはみんながやっぱりおんなじ方向を向いて、一人一人がそれに向かって頑張っていこうじゃないかという、そういうことを繰り返していかなければならないというふうに思っています。

ですから、今これからちょうどこの秋にはデンマークでCOP15 という、京都で行われたのがCOP3、それから 12 年たって新しい京都議定書の次の枠組みがそろそろ決まってこなきゃいけないというところに来てるんですけど、なかなかちょっともめてるようでしてね。みんなそれぞれが、先進国は「中国やインドも入って物すごい頑張らんとあかん」言うてますし、中国やインドは「そんなこと言ったって、ほとんどは先進国がやったんやないか」みたいな話をして、まとまらないところがありますし、一番大きな問題は京都議定書の場合に地球で、世界で一番二酸化炭素を出しているのはアメリカと中国なんですよ、1 番、2 番が。この二つが京都議定書に入っていないということが、ほんと地球を守る上でまずい話になってるわけです。

そうした点をみんなでやっぱり解決をして、そして決まったときに私たちもやっぱり生活を変えていかないかんと思います。先ほど自給自足という話がありましたけれども、できるだけ自然の力を生かした形で生きていく、そして自然とともに生きていくというふうに、ライ

フスタイルをやっぱり変えないかんとおもいます。いつになってもテレビをつけたらテレビが番組をやっているという時代は、私はやっぱりちょっとおかしいんじゃないかと思うんですよね。寝るときはみんなで寝ていくという方が、ほんとはいいんじゃないかなという気がしておりますけど、そういうことを1個やっていくという話。

それから天橋立の保存なんですけれども、多分海面の上昇というのはゆっくり進むんですけど、そのときに最初に問題になってくるのは砂が取られていくということだと思うんです。あそこ今、きちっと砂がなっていますけれども、だんだんやっぱり砂が失われていくということが、天橋立の一番のピンチにつながっていくと思います。もちろん、阿蘇海の環境の問題もやっていかなきゃなりませんけども、天橋立自身はそうした砂をどうやって守っていくか。これは嘗々と今まで私たちも砂が流れるのを防止のための技術を積み重ねてきましたから、ここをやっていくことによって、基本的にはだんだんと天橋立が水没しないように守っていくとしか、私は今は言えないと思います。

でも、そうした状況が続かないように、みんなで力を合わせてやっていくというのが先じゃないかなというふうに思いますけどね。

○司会 ありがとうございます。

本当に時間があつという間のようなんですけれども、きょうはどちらかという男性目線の質問が多かったのではないかなという気がしております。丹後でも本当に女性が頑張っておられるグループもたくさんありまして、すごいなと感心することも多いんですけれども、この中でもやはり男性の中にまじって頑張っておられる女性、太田町長がおられますけれども、家の仕事もしながら、そして町長としても活躍されて、この男性たちに負けないようにいろいろと御意見もおっしゃらないといけないし、また職員の皆様も引っ張っていかないといけないというところもあると思うんですけれども。

その女性らしさとか、女性の観点から、じゃあ丹後ってどうなんだろうとか、こういうことをもう少し気づいていっていかないといけないんじゃないかというふうなことは、何かございませんでしょうか。

○太田貴美町長 女性の立場からというよりも、生活者としての視点からということの方じゃないかなと思います。もう少子高齢化というのは、全国的にそういう状況になっています。望むと望まざるとにかかわらず、既にそういう世界に入ってるわけですから、それらに対してやはり早目、早目の手だてを打っていくということがまず大事なというふうに思います。それは何も高齢者の方だけじゃない、子供たちから大人の人、そして高齢者の方たちに対して、

やはり行政ができることは何か、また住民の皆さんにさせていただくことは何かというふうな、そういう話といたしますか、そういうやりとり、また実際にそういうところで働いておられる方たちの問題点は何かという、割合地道な形のところのそうした取り組みが後々に生きてくるのではないかなというふうに思っています。

与謝野町も大変少子高齢化、これからいろいろと問題が出てくると思いますが、やはり福祉の町としてやっていきたいというのは、生活している人たちが支える、またお世話になる、またその人たちがお世話をするという、これも循環型と言えればおかしいですけども、本当に近所の方たちの協力を得る中で、やはり防災についても、また、そうしたコミュニティづくりにも参加をしていただくということが、そういう力がこの町を盛り上げていく、この地域を盛り上げていく大きな力になるんだというふうに思っています。

○司会 ありがとうございます。

本当に生活に密着したところから、いろいろなことを考えていかないといけないというのがやはり丹後の大きな課題ではないかと思うんですけども、高木先生、いかがですか、きょうの皆さんの御意見をお聞きになりまして。

○高木 光 本当に伺っていて、それぞれの場所で力を合わせてということが非常によくわかりましたし、ですから丹後に関しては心配しておりません。むしろ南の方が問題かなという感じが若干したということをお願いしたいと思います。

どうもありがとうございました。

○司会 ありがとうございます。

そうですね、そのようなことでございましたか。

さて、会場の皆様方には本当に多くの御意見をいただいたんですけども、本当に申しわけございません、お開きのお時間がもう近づいているようでございます。

では、結びに山田啓二京都府知事から、本日の府民交流会 in 丹後のまとめをお願いいたします。

○山田啓二知事 本日は本当にありがとうございました。

私ども、先ほど最初に申しましたように、長期ビジョンをつくっていかう、これはやはり今大変厳しい時代ですけども、夢を語って、夢に向かってみんなで力を合わせていかなければ、これはやっぱり地域の未来はないと思います。夢がなければ若い人も来てくれませんし、若い人も育たないというふうに思います。そのためにぜひとも力を合わせて皆さんと一緒に、この丹後の宮津・与謝の夢をつくっていききたいなというふうに思います。

そのときにちょうど宮津・与謝・丹後というのは、今ようやく社会的基盤が整いつつあります。まだまだ、先ほども下水道の話がありましたように、浄化槽の話がありましたように、まだまだできない部分もあるんですけども、それが今動いて、ようやく一つの結論をこれから得ようとしている。京都縦貫自動車道だって、ようやく平成 26 年にでき上がる。でも、でき上がったときにそれが生きなければ、せっかく大きな投資は無駄になってしまいます。そのときに、こうした投資を本当に皆さんと生かせるようにしてくにはどうしたらいいのか。多分、高齢化社会がこれから広がっていきます。福祉社会を私たちがつくっていかねばなりません。幾ら施設をつくっても、人と人の心がつながってなければ、すばらしい福祉社会は訪れません。

丹後は天橋立、そして山陰海岸、多くの自然の恵み、どれをとってもすばらしいものがあります。片や天橋立は世界遺産を目指していますし、山陰海岸の方は世界ジオパークを目指している。本当にすばらしい資源をみんなの力を合わせて、しっかりと未来に向かって進んでいける、そういう長期ビジョンをつくりたいと思っています。そのために、今日だけではなく、これからもぜひとも皆さんの意見をたくさんいただきたい、そういう思いであります。その意見は多分、市町村長さんを通じ、また府議会議員さんを通じ、またはお手紙でもメールでも結構です。これからの未来をつくるために、皆さんの意見をこれからもお待ちしております。

どうかよろしくお願いいたします。

○司会 ありがとうございます。

これもちまして、「未来をつむぐ「明日の京都」ビジョン あなたとつなぐ府民交流会 in 丹後」を終了とさせていただきます。

山田知事を初め、ステージ上の皆様、そして会場の皆様、ありがとうございました。